

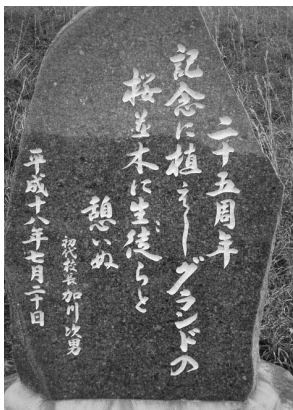
発見!

熊野町の「工工」ところ。

シリーズ
第13回

全国各地にある名所や名物、もちろん熊野町にもたくさんあります。そんな町内に埋もれた、さまざまなモノ・場所などの「工工ところ」を紹介するコーナーです。
今回は「熊野東中学校の校歌」にまつわるレポートです。

「友愛」、「真実」そして「平和」と。～vol.3 熊野東中学校校歌～



創立25周年記念碑

これは東中学校校歌である。作詞を担当されたのは、初代校長・加川次男先生（82才）。いったいどんなイメージで校歌は作られたのだろうか？今回は、歌へ込められた思いを、再発見！

- 一、峰染めて 目覚むる杜の
緑濃き 山ふところに
えにしあり 集ひしわれら
友愛の 絆はかたし
- 二、眉あげて 光に向けば
行く雲に 心はためく
望みあり 磨かむわれら
真実の ゆくえ遙かに
- 三、たぎつ瀬の 流れさやかに
受け継がむ 祖のいさおし
たいらぎの 永久なる道に
使命あり 歩みはながし
- 四、二つなき いのちに覚むる
まなかひに 歴史をおさめて
おのがじし 業を鍛えむ
榮えある 熊野東中学校

東中学校へ続く坂道、通称「まん坂」右手に、一昨年、初代加川次男校長の詩を刻んだ創立25周年記念碑が据えられた。

校長室に入ると、大畑校長と、初代加川校長と現在も親交のある佐田教頭もご一緒に、用意くださった初代加川校長の手記や詩集などを広げながら、現在のご様子などお話しください。

どうやら、初代加川校長は江田島市のご自宅で、短歌や執筆活動などされながら、活躍されているようである。さっそくいただいた地図をたよりに島の道を進み、初代加川校長のお宅に到着。



執筆中の初代加川次男校長

案内された応接間は、長年大事に使いこなされた、ステキな木の机が印象的である。「ボクは、今でも執筆には毎日この下敷きを使っているのですよ」。少し恥ずかしそうに、まず見せてくださったのは、なんと東中学校20周年記念の下敷き!!

校長は、校歌・校訓を作られた思いを、当時の様子を振り返りながらお話しください。

開校当時3月より赴任して、学校の近くに住まわれていたそう。まず、朝から夕暮れまでこの学校から見える緑に歓喜し、校舎から山を眺め、グラウンドに立って校舎や空を眺め、二河川と熊野川を車で往復して清流のせせらぎに耳を澄ましながら、約1ヶ月余りかけ思いをめぐらして言葉を選ばれたそうである。

こうして出来上がった校歌には、1番に、ここを母校として育つ縁あつて結ばれた生徒達が末永く仲良く生きていけるように「友愛」を。2番には、現実から自分で課題を見つけて解決できるように「真実」を。3番には、祖先の歩んだ平和への道を今度は私達が繋ぐと「平和」を。そして4番では、校訓になる「友愛・真実・平和」を誓い、母校がますます栄えることを願う、結びのことばで締めくくられている。

校歌は、いつも必ず最後の4番まで歌われている。今度の卒業式には、一緒に歌う校歌が今からひとしおに思われる。

取材 伊藤真由美